

タバコは肺がんの最大の原因ですが、他のがんへの影響はどうでしょうか。タバコには5,000種類以上の化学物質が含まれ、そのうちの70種類が「発がん性物質」と分かっています。それらが全身の細胞に吸収されて蓄積し、口腔(こうくう)がん、咽頭(いんとう)がん、喉頭(こうとう)がん、鼻腔(びくう)・副鼻腔がん、食道がん、胃がん、肝臓がん、膵臓(すいぞう)がん、膀胱(ぼうこう)がん、子宮頸部(しきゅうけいぶ)がんなど、さまざまな「がん」をおこしやすくさせます。こわいことに、タバコを吸っている人は、尿や髪の毛からも発がん性物質が検出されます。例えば、発がん性物質が膀胱に蓄積して、膀胱がんをおこしやすくさせます。

タバコは、がんのほかにも、心筋梗塞(しんきんこうそく)や狭心症(きょうしんしょう)など心臓の血管がつまる病気、脳卒中(脳梗塞、脳出血など)、糖尿病、歯周病、など多くの病気をおこしやすくさせます。

ただし、禁煙した後は、さまざまな「がん」、脳梗塞、心筋梗塞、狭心症、など多くの病気のおこる確率が下がっていきます。健康な生活をめざすのなら、タバコを吸っている人は、すぐにやめる必要がありますね。

呼吸器内科 主任医長 山本 祐介